

第3四半期報告書

本書は、EDINET (Electronic Disclosure for Investors' NETwork) システムを利用して金融庁に提出した第3四半期報告書の記載事項を、紙媒体として作成したものです。

株式会社エイジス

(E04975)

目 次

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
3 【関係会社の状況】	3
4 【従業員の状況】	3
第2 【事業の状況】	4
1 【生産、受注及び販売の状況】	4
2 【事業等のリスク】	5
3 【経営上の重要な契約等】	5
4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	5
第3 【設備の状況】	8
第4 【提出会社の状況】	9
1 【株式等の状況】	9
(1) 【株式の総数等】	9
① 【株式の総数】	9
② 【発行済株式】	9
(2) 【新株予約権等の状況】	9
(3) 【ライツプランの内容】	9
(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】	9
(5) 【大株主の状況】	9
(6) 【議決権の状況】	10
① 【発行済株式】	10
② 【自己株式等】	10
2 【株価の推移】	10
【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】	10
3 【役員の状況】	10
第5 【経理の状況】	11
1 【四半期連結財務諸表】	12
(1) 【四半期連結貸借対照表】	12
(2) 【四半期連結損益計算書】	14
【第3四半期連結累計期間】	14
【第3四半期連結会計期間】	15
(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】	16

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】	17
【表示方法の変更】	17
【簡便な会計処理】	17
【四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理】	17
【注記事項】	18
【事業の種類別セグメント情報】	20
【所在地別セグメント情報】	22
【海外売上高】	22
2 【その他】	24
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	25
レビュー報告書	巻末

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年2月10日
【四半期会計期間】	第33期第3四半期(自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)
【会社名】	株式会社エイジス
【英訳名】	AJIS CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 齋藤 昭生
【本店の所在の場所】	千葉県千葉市花見川区幕張町四丁目544番4
【電話番号】	043 (350)0888 (代表)
【事務連絡者氏名】	財務経理部長 西岡 博之
【最寄りの連絡場所】	千葉県千葉市花見川区幕張町四丁目544番4
【電話番号】	043(350)0567
【事務連絡者氏名】	財務経理部長 西岡 博之
【縦覧に供する場所】	株式会社ジャスダック証券取引所 (東京都中央区日本橋茅場町一丁目5番8号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次	第32期 第3四半期 連結累計期間	第33期 第3四半期 連結累計期間	第32期 第3四半期 連結会計期間	第33期 第3四半期 連結会計期間	第32期
会計期間	自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日	自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日	自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日	自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日	自 平成20年4月1日 至 平成21年3月31日
売上高 (千円)	12,709,709	12,295,486	3,451,589	3,269,723	18,784,442
経常利益又は経常損失 (△) (千円)	1,068,190	896,914	3,666	△122,780	2,264,173
四半期(当期)純利益又は 四半期純損失(△) (千円)	578,428	491,423	△25,298	△49,271	1,259,421
純資産額 (千円)	—	—	5,409,888	6,327,556	6,040,741
総資産額 (千円)	—	—	6,996,122	8,050,922	8,676,384
1株当たり純資産額 (円)	—	—	1,100.42	1,288.04	1,229.56
1株当たり四半期(当 期)純利益金額又は四半 期純損失金額(△) (円)	115.52	100.45	△5.17	△10.07	252.84
潜在株式調整後1株当た り四半期(当期)純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	—	—	77.0	78.3	69.3
営業活動によるキャッシ ュ・フロー (千円)	840,306	859,407	—	—	1,671,144
投資活動によるキャッシ ュ・フロー (千円)	△367,381	△1,239,630	—	—	△514,303
財務活動によるキャッシ ュ・フロー (千円)	△841,028	△240,275	—	—	△879,260
現金及び現金同等物の四 半期末(期末)残高 (千円)	—	—	2,388,044	2,419,255	3,031,839
従業員数 (人)	—	—	277	316	274

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動はありません。

3 【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社における状況

平成21年12月31日現在

従業員数(人)	316	(4,080)
---------	-----	---------

(注) 1 従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外から当社グループへの出向者を含む就業人員であります。

2 従業員数欄の（外書）は、臨時従業員（契約社員、時間給社員、派遣社員）の当第3四半期連結会計期間の平均雇用人員（1日8時間換算）であります。

(2) 提出会社の状況

平成21年12月31日現在

従業員数(人)	265	(3,351)
---------	-----	---------

(注) 1 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員であります。

2 従業員数欄の（外書）は、臨時従業員（契約社員、時間給社員、派遣社員）の当第3四半期会計期間の平均雇用人員（1日8時間換算）であります。

第２ 【事業の状況】

１ 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

該当事項はありません。

(2) 受注実績

該当事項はありません。

(3) 販売実績

当第３四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高(千円)	前年同四半期比(%)
実地棚卸サービス事業		
棚卸受託収入		
国内棚卸受託収入		
コンビニエンスストア	857,235	+0.8
スーパーマーケット	335,107	△4.0
ホームセンター・ドラッグストア・ ディスカウントストア	378,707	△0.5
書店	125,801	+1.2
G.M.S	387,768	+2.3
その他	643,255	△10.5
小計	2,727,877	△2.7
海外棚卸受託収入	114,087	△12.8
棚卸受託収入合計	2,841,964	△3.1
ロイヤリティ収入	34,221	+21.8
その他の流通業周辺サービス	31,664	+7.8
実地棚卸サービス事業計	2,907,851	△2.8
人材派遣事業	361,871	△21.5
合計	3,269,723	△5.3

(注) 1 国内棚卸受託収入のG.M.S.(General Merchandise Store)は、大衆実用品のうち、新機能開発品主力の総合店。いわゆる日本型大型スーパーであります。

2 国内棚卸受託収入のその他は、上記５業態の範疇に属さない業種・業態でその主なものはアパレル、ワンズライスショップ等であります。

3 セグメント間の取引については相殺消去しております。

4 当社グループの販売高の特徴として、国内実地棚卸サービス事業の閑散期である第１四半期連結会計期間および第３四半期連結会計期間の販売高は少なく、国内の主要な顧客である流通業界の決算が集中する第２四半期連結会計期間および第４四半期連結会計期間は繁忙期となり販売高が多くなる傾向があります。

5 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異変な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結会計期間におけるわが国経済は、一昨年に米国より発した、世界金融危機の影響による景気低迷が続くなか、相次ぐ経済政策の実施で回復基調を見せましたが一時的なものとなり、物価動向はデフレ状況にあるなど、先行き不透明な状況で推移いたしました。

当社グループの主要顧客であります流通業界は、雇用情勢が厳しいなか、個人消費意欲の停滞等で依然厳しい経営環境が続いております。

こうした経営環境下で当社グループは、顧客のローコストオペレーションを側面からサポートするために、棚卸精度および生産性の向上、ならびに人材育成に注力して参りました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

① 実地棚卸サービス事業

実地棚卸サービス事業の業績は、国内実地棚卸サービス事業において、流通業界の厳しい業績を反映し顧客の棚卸回数減および1店舗あたりの在庫が減少したこと等より、売上高は2,907百万円（前年同期比2.8%減）、営業損失は129百万円となりました。

② 人材派遣事業

人材派遣事業の業績は、雇用環境の変化により顧客の自社対応が可能となり、派遣契約の終了等で売上高は361百万円（前年同期比21.5%減）、営業損失は1百万円となりました。

この結果、第3四半期連結会計期間の売上高は3,269百万円（前年同期比5.3%減）、営業損失は126百万円（前年同期は営業損失1百万円）、経常損失は122百万円（前年同期は経常利益3百万円）、四半期純損失は49百万円（前年同期は四半期純損失25百万円）となりました。

なお、当社グループの売上高の特徴として、国内実地棚卸サービス事業の閑散期である第1四半期連結会計期間および第3四半期連結会計期間の売上高は少なく、国内の主要な顧客である流通業界の決算が集中する第2四半期連結会計期間および第4四半期連結会計期間は繁忙期となり売上高が多くなる傾向があります。

(2) 財政状態の分析

（総資産）

当第3四半期連結会計期間末における総資産は8,050百万円（前連結会計年度末比625百万円の減少、前連結会計年度末比7.2%減）となりました。これは、主として本社第2ビルの建設工事に伴い有形固定資産が増加しましたが、当第3四半期は閑散期につき期首と比較して売掛金が減少したことによるものです。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における負債は1,723百万円（前連結会計年度末比912百万円の減少、前連結会計年度末比34.6%減）となりました。これは、主として未払法人税等の減少によるものです。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産は6,327百万円（前連結会計年度末比286百万円の増加、前連結会計年度末比4.7%増）となりました。これは、主として利益の獲得による利益剰余金の増加によるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、2,419百万円（前連結会計年度末比612百万円の減少、前年同四半期比31百万円の増加）となりました。当第3四半期連結会計期間のキ

キャッシュ・フローの状況は以下のとおりです。

①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、12百万円の減少（前年同四半期比167百万円の減少）となりました。これは、主として未払金の減少および法人税等の支払額の増加によるものです。

②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、527百万円の減少（前年同四半期比400百万円の減少）となりました。これは、主として本社第2ビルの建設費用等の有形固定資産の取得による支出の増加によるものであります。

③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、19百万円の減少（前年同四半期比28百万円の減少）となりました。これは、主として短期借入金の返済による支出によるものです。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりです。

1 基本方針と取組み

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方について、当社の企業価値を支えている独立的立場の堅持と技術ノウハウの蓄積、顧客との長期安定的な関係の維持を守ることにより当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保、向上させることを基本方針として定め、同方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みとして、当社株式の大量取得行為に対応する手続きを定めております。具体的には、平成18年5月9日開催の取締役会において、当社株式の大量取得行為に関する対応策（以下、「本ルール」といいます。）の導入を決定し、平成18年6月29日開催の第29回定時株主総会において本ルール導入についてご承認をいただきました。そして、本ルールの継続、廃止の是非を2年毎に、定時株主総会において確認することといたしました。これにより、平成20年6月27日の第31回定時株主総会において本ルールの継続が承認されました。

2 本ルールの具体的内容

買収者が当社の株式を単独又は共同して20%以上取得しようとする場合、まず①買収提案書を提出していただき、その後、②当社が指定する事項を内容とする買収提案説明書を提出していただきます。

他方、③当社は、買収者の買収提案の評価、検討、交渉、意見形成、代替案立案などを行うための期間および株主の皆様の熟慮期間（以下、「評価熟慮期間」といいます。）を設定して、買収提案者から十分な情報が提供された後、④評価熟慮期間内に買収提案を評価し、⑤買収提案に対する対応を決定いたします。

具体的な対応方針としては、買収提案者が本ルールに従う場合、当社取締役会は、株主の皆様の判断に基づくことなく具体的な対抗措置をとらないものとします。もっとも、その場合であっても、当社の設置する企業価値検討特別委員会が、当該買収行為によって当社の企業価値が毀損されると判断した場合、企業価値検討特別委員会の勧告に基づき新株予約権の発行等会社法その他の法令又は定款によって取締役会に認められる対抗措置をとる場合があります。買収者が本ルールに従わないで、当社の株式の大量取得行為を行った場合には、原則として、企業価値検討特別委員会の勧告に基づいて当社の企業価値の毀損・減殺防止のため必要かつ相当と認められる範囲において対抗措置をとります。具体的な対抗措置は、状況に応じて、株主の皆様全体の利益を必要以上に害することのない適切かつ妥当な手段を選択いたします。

なお、当社は当社と何ら利害関係のない独立した第三者で構成される企業価値検討特別委員会を設置し、i. 評価検討期間の設定、ii. 防衛策の発動・不発動の判断、iii. 買収提案者の情報提供の完了の有無、iv. 買収提案者の本ルール遵守・不遵守の評価、v. 買収提案者の提案内容が当社の企業価値を毀損させるかどうかの判断、vi. その他取締役会から判断を求められた事項について、当該委員会が判断し、当社取締役会は当該判断を最大限尊重して行動いたします。

3 当社取組みに対する取締役会の判断およびその判断に係る理由

当社の企業価値は、独立的立場の堅持と技術ノウハウの蓄積、顧客との長期安定的な関係の維持によって支えられており、企業価値の維持・向上のためには、顧客との間で独立性を堅持するとともに、顧客との関係および技術ノウハウの毀損、流出を防ぐ必要があります。当社に対し買収提案がなされた場合、買収提案がそのような企業価値の維持・向上となるかどうかを判断するためには、買収提案を検討するための十分な時間と資料が必要となります。

そこで、当社に対して買収提案がなされた場合に、買収提案が当社の企業価値ひいては株主共同

の利益の確保又は向上につながるかどうかを株主の皆様が検討するための十分な時間と資料を確保し、また当社が買収提案者と交渉することを可能とするため、本ルールを導入しております。したがって、本ルールは、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上させるものであり、当社株主共同の利益を損なうものではないと当社取締役会は判断しております。

また、本ルールにより、当社に対して買収提案がなされた場合の具体的な手続き、対応および買収提案が当社企業価値を毀損されるかどうかの判断を当社と何ら利害関係のない独立した第三者で構成される企業価値検討特別委員会が行うことになるため、本ルールは、当社役員の地位の維持につながるものではないと当社取締役会は判断しております。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

経営成績に重要な影響を与える要因について、当社及び子会社の事業その他に関するリスクとして投資家の判断に重要な影響を及ぼす可能性があると考えられる事項には以下のようなものがありますが、短期的にその影響が顕著に現れるとは現時点で考えておらず、取締役会等において都度状況等を把握し、対策を検討していきたいと考えております。

①繁忙期における人材確保のリスク

②ＩＣタグ普及による棚卸方法等への影響のリスク

経営戦略の現状と見通しについて、実地棚卸市場の拡大は引続き堅調に進むものと認識しております。特に近年はホームセンター、ドラッグストアおよびその他の業態のアウトソーシング需要が顕在化してきております。また、物流倉庫等の流通業以外からの棚卸ニーズも高まってくるものと予想しております。

また、実地棚卸業務以外のアウトソーシング需要についても顕在化してきており、当社グループ各社はそれらの需要に対応すべく、その他の流通業周辺サービスおよび人材派遣事業の拡充をはかっております。

(7) 経営者の問題認識と今後の方針について

売上面については、主要な顧客である流通業界が実地棚卸業務（その他の流通業周辺業務を含め）をアウトソーシングする動きが加速するなか、今後も堅調に推移するものと考えております。

収益面については、以下の点を実施し、生産性の向上をはかっていきたいと考えております。

①棚卸経験者数の増加

②循環棚卸の導入による繁閑格差の是正

③D. O.（ディストリクトオフィス）における日次経費コントロールの徹底

④新棚卸オペレーションの定着化

顧客のニーズが、コスト一辺倒から“コストと品質の両立”へと変化するなか、当社は、これまで以上に「精度」の向上を推進することで競争力を発揮してまいります。

また、棚卸サービスおよびカスタマーサービスチェック、レジ派遣等のリテイルサポートサービスの提供を通し、顧客とのパートナーシップを強め、顧客にとって当社が必要不可欠な存在になりたいと考えております。

第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結会計期間において、第2四半期連結会計期間末に計画中であった重要な設備の新設、除却等について、重要な変更はありません。また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	14,000,000
計	14,000,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成21年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成22年2月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,385,600	5,385,600	ジャスダック証券取引所	単元株式数は100株です。
計	5,385,600	5,385,600	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成21年10月1日～ 平成21年12月31日	—	5,385,600	—	475,000	—	489,480

(5) 【大株主の状況】

大量保有報告書の写しの送付がなく、当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができませんので、直前の基準日である平成21年9月30日の株主名簿により記載しております。

① 【発行済株式】

平成21年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 493,500	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,880,600	48,806	—
単元未満株式	普通株式 11,500	—	—
発行済株式総数	5,385,600	—	—
総株主の議決権	—	48,806	—

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が、200株(議決権2個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式が14株、証券保管振替機構名義の株式が20株含まれております。

② 【自己株式等】

平成21年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 割合(%)
(自己保有株式) 株式会社エイジス	千葉県花見川区 幕張町4丁目544 番4	493,500	—	493,500	9.16
計	—	493,500	—	493,500	9.16

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成21年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	2,400	2,290	2,190	2,180	2,135	2,175	2,100	1,795	1,615
最低(円)	1,950	1,950	2,035	1,985	1,915	2,005	1,740	1,425	1,400

(注) 最高・最低株価は、ジャスダック証券取引所におけるものであります。

3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて役員の異動はありません。

第5 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第3四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年12月31日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第3四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び前第3四半期連結累計期間（平成20年4月1日から平成20年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表並びに当第3四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、三優監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,835,272	3,037,587
受取手形及び売掛金	1,188,776	2,358,404
貯蔵品	94,393	78,849
その他	418,608	327,869
貸倒引当金	△1,644	△2,277
流動資産合計	4,535,406	5,800,434
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,193,012	1,193,012
その他（純額）	※1 954,174	※1 471,252
有形固定資産合計	2,147,186	1,664,264
無形固定資産	511,392	428,878
投資その他の資産		
その他	※3 872,068	※3 798,709
貸倒引当金	△15,132	△15,903
投資その他の資産合計	856,936	782,806
固定資産合計	3,515,515	2,875,950
資産合計	8,050,922	8,676,384
負債の部		
流動負債		
短期借入金	20,000	40,000
未払金	1,048,751	1,128,732
未払法人税等	—	586,236
賞与引当金	170,461	278,148
役員賞与引当金	51,809	67,320
その他	280,332	400,654
流動負債合計	1,571,355	2,501,092
固定負債		
退職給付引当金	14,347	20,214
債務保証損失引当金	50,000	30,000
その他	87,662	84,335
固定負債合計	152,009	134,549
負債合計	1,723,365	2,635,642

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	475,000	475,000
資本剰余金	489,665	489,665
利益剰余金	6,670,358	6,399,082
自己株式	△1,228,247	△1,227,959
株主資本合計	6,406,775	6,135,788
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△72,947	△75,694
為替換算調整勘定	△32,695	△44,872
評価・換算差額等合計	△105,642	△120,566
少数株主持分	26,423	25,520
純資産合計	6,327,556	6,040,741
負債純資産合計	8,050,922	8,676,384

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
売上高	12,709,709	12,295,486
売上原価	9,654,602	9,389,980
売上総利益	3,055,107	2,905,506
販売費及び一般管理費	※1 2,002,791	※1 2,028,989
営業利益	1,052,315	876,516
営業外収益		
受取利息	3,620	2,622
受取配当金	6,052	5,665
受取賃貸料	14,301	21,606
その他	12,689	8,296
営業外収益合計	36,664	38,191
営業外費用		
支払利息	837	371
貸倒引当金繰入額	5,320	—
賃貸費用	10,775	15,694
その他	3,855	1,727
営業外費用合計	20,789	17,794
経常利益	1,068,190	896,914
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	1,584
特別利益合計	—	1,584
特別損失		
固定資産除却損	1,068	1,109
投資有価証券評価損	50,284	—
債務保証損失引当金繰入額	—	20,000
特別損失合計	51,353	21,109
税金等調整前四半期純利益	1,016,837	877,389
法人税等	435,959	385,062
少数株主利益	2,449	902
四半期純利益	578,428	491,423

【第3四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)
売上高	3,451,589	3,269,723
売上原価	2,773,821	2,716,967
売上総利益	677,767	552,756
販売費及び一般管理費	※1 679,433	※1 679,310
営業損失(△)	△1,666	△126,554
営業外収益		
受取利息	458	722
受取配当金	245	210
受取賃貸料	5,146	8,557
物品売却益	2,016	65
その他	2,606	1,388
営業外収益合計	10,473	10,943
営業外費用		
支払利息	334	121
為替差損	880	△165
賃貸費用	3,907	7,214
その他	17	0
営業外費用合計	5,140	7,170
経常利益又は経常損失(△)	3,666	△122,780
特別利益		
貸倒引当金戻入額	872	1,066
特別利益合計	872	1,066
特別損失		
固定資産除却損	147	910
投資有価証券評価損	50,284	△57,201
債務保証損失引当金繰入額	—	20,000
特別損失合計	50,431	△36,291
税金等調整前四半期純損失(△)	△45,892	△85,422
法人税等	△22,015	△36,058
少数株主利益又は少数株主損失(△)	1,420	△93
四半期純損失(△)	△25,298	△49,271

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,016,837	877,389
減価償却費	208,270	216,876
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△120,536	△107,687
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△13,643	△15,510
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	6,511	△9,167
債務保証損失引当金の増減額 (△は減少)	—	20,000
受取利息及び受取配当金	△9,673	△8,288
支払利息	837	371
投資有価証券評価損益 (△は益)	50,284	—
売上債権の増減額 (△は増加)	993,031	1,177,977
未払金の増減額 (△は減少)	△179,447	△81,818
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△74,260	△98,914
その他	△149,661	△53,753
小計	1,728,549	1,917,475
利息及び配当金の受取額	8,912	7,272
利息の支払額	△755	△320
法人税等の支払額	△896,399	△1,065,020
営業活動によるキャッシュ・フロー	840,306	859,407
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△520,011
定期預金の払戻による収入	—	110,759
有形固定資産の取得による支出	△243,155	△579,126
有形固定資産の売却による収入	13,522	35,457
無形固定資産の取得による支出	△142,415	△209,025
投資有価証券の取得による支出	—	△3,000
関係会社株式の取得による支出	—	△61,876
差入保証金の差入による支出	△24,649	△30,758
差入保証金の回収による収入	25,919	22,317
その他	3,396	△4,366
投資活動によるキャッシュ・フロー	△367,381	△1,239,630
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	9,344	△20,000
自己株式の取得による支出	△620,266	△287
配当金の支払額	△230,106	△219,987
財務活動によるキャッシュ・フロー	△841,028	△240,275
現金及び現金同等物に係る換算差額	△21,511	7,914
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△389,615	△612,584
現金及び現金同等物の期首残高	2,777,659	3,031,839
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 2,388,044	※ 2,419,255

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
該当事項はありません。

【表示方法の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係) 前第3四半期連結累計期間において、「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示しておりました「定期預金の預入による支出」は重要性が増したため、当第3四半期連結累計期間より区分掲記することとしました。なお、前第3四半期連結累計期間の「投資活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含まれる「定期預金の預入による支出」は467千円です。

【簡便な会計処理】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
一般債権の貸倒見積高の算定方法 当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

【四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
税金費用の計算 当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。 なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)
※1 有形固定資産の減価償却累計額 1,148,094千円 2 保証債務 連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対し、債務保証を行っております。 株式会社カスタマーサービス・チェック 50,000千円 計 50,000千円 ※3 長期預金 「投資その他の資産」の「その他」に含めて表示している長期預金100,000千円(当初預入期間3年、満期日平成23年1月11日)は、満期日又は解約充足日までは保有する方針ですが、当社から解約を行う場合、中途解約精算金を支払う必要があります。この中途解約精算金の支払いにより預金元本を毀損する可能性があります。	※1 有形固定資産の減価償却累計額 1,097,187千円 2 保証債務 連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対し、債務保証を行っております。 大連愛捷是科技有限公司 21,542千円 株式会社カスタマーサービス・チェック 30,000千円 計 51,542千円 ※3 長期預金 「投資その他の資産」の「その他」に含めて表示している長期預金100,000千円(当初預入期間3年、満期日平成23年1月11日)は、満期日又は解約充足日までは保有する方針ですが、当社から解約を行う場合、中途解約精算金を支払う必要があります。この中途解約精算金の支払いにより預金元本を毀損する可能性があります。

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。 給料手当 613,412千円 賞与引当金繰入額 53,347千円 役員賞与引当金繰入額 56,271千円 退職給付費用 26,775千円 2 当社グループの売上高の特徴として、第1四半期および第3四半期は売上高が少なく、主要な顧客である流通業界の決算が集中する第2四半期及び第4四半期は売上高が多くなる傾向があります。	※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。 給料手当 656,280千円 賞与引当金繰入額 60,435千円 役員賞与引当金繰入額 51,809千円 退職給付費用 29,482千円 2 当社グループの売上高の特徴として、第1四半期および第3四半期は売上高が少なく、主要な顧客である流通業界の決算が集中する第2四半期及び第4四半期は売上高が多くなる傾向があります。

前第3四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)
※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。 給料手当 197,783千円 賞与引当金繰入額 53,347千円 役員賞与引当金繰入額 19,068千円 退職給付費用 8,108千円 2 当社グループの売上高の特徴として、第1四半期および第3四半期は売上高が少なく、主要な顧客である流通業界の決算が集中する第2四半期及び第4四半期は売上高が多くなる傾向があります。	※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。 給料手当 219,414千円 賞与引当金繰入額 △58,829千円 役員賞与引当金繰入額 17,269千円 退職給付費用 10,185千円 2 当社グループの売上高の特徴として、第1四半期および第3四半期は売上高が少なく、主要な顧客である流通業界の決算が集中する第2四半期及び第4四半期は売上高が多くなる傾向があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結 貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成20年12月31日現在)	※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結 貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成21年12月31日現在)
現金及び預金勘定 2,392,026千円	現金及び預金勘定 2,835,272千円
小計 2,392,026千円	小計 2,835,272千円
預入期間3か月超の定期預金 △3,981千円	預入期間3か月超の定期預金 △416,017千円
現金及び現金同等物 2,388,044千円	現金及び現金同等物 2,419,255千円

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成21年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日
至 平成21年12月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第3四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	5,385,600

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当第3四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	493,572

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成21年6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	220,147	45.0	平成21年3月31日	平成21年6月29日

(2) 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

5 株主資本の著しい変動に関する事項

該当事項はありません。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間（自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日）

	実地棚卸サービス 事業 (千円)	人材派遣事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1)外部顧客に対する 売上高	2,990,562	461,026	3,451,589	—	3,451,589
(2)セグメント間の内 部売上高又は振替 高	—	1,282	1,282	(1,282)	—
計	2,990,562	462,309	3,452,871	(1,282)	3,451,589
営業利益又は営業損失 (△)	△26,655	22,294	△4,361	2,695	△1,666

(注) 1 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっている。

2 各区分の主な製品

(1) 実地棚卸サービス事業

金額棚卸サービス、単品棚卸サービス、資産棚卸プログラム、その他の流通業周辺サービス

(2) 人材派遣事業

人材派遣サービス

当第3四半期連結会計期間（自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日）

	実地棚卸サービス 事業 (千円)	人材派遣事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1)外部顧客に対する 売上高	2,907,851	361,871	3,269,723	—	3,269,723
(2)セグメント間の内 部売上高又は振替 高	—	25	25	(25)	—
計	2,907,851	361,897	3,269,748	(25)	3,269,723
営業利益又は営業損失 (△)	△129,962	△1,427	△131,390	4,836	△126,554

(注) 1 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっている。

2 各区分の主な製品

(1) 実地棚卸サービス事業

金額棚卸サービス、単品棚卸サービス、資産棚卸プログラム、その他の流通業周辺サービス

(2) 人材派遣事業

人材派遣サービス

前第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

	実地棚卸サービス 事業(千円)	人材派遣事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1)外部顧客に対する 売上高	11,444,460	1,265,248	12,709,709	—	12,709,709
(2)セグメント間の内 部売上高又は振替 高	—	3,193	3,193	(3,193)	—
計	11,444,460	1,268,442	12,712,902	(3,193)	12,709,709
営業利益	1,005,869	38,417	1,044,287	8,028	1,052,315

(注) 1 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっている。

2 各区分の主な製品

(1) 実地棚卸サービス事業

金額棚卸サービス、単品棚卸サービス、資産棚卸プログラム、その他の流通業周辺サービス

(2) 人材派遣事業

人材派遣サービス

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

	実地棚卸サービス 事業(千円)	人材派遣事業 (千円)	計 (千円)	消去又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高					
(1)外部顧客に対する 売上高	11,219,414	1,076,071	12,295,486	—	12,295,486
(2)セグメント間の内 部売上高又は振替 高	—	367	367	(367)	—
計	11,219,414	1,076,438	12,295,853	(367)	12,295,486
営業利益	848,018	13,911	861,929	14,587	876,516

(注) 1 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっている。

2 各区分の主な製品

(1) 実地棚卸サービス事業

金額棚卸サービス、単品棚卸サービス、資産棚卸プログラム、その他の流通業周辺サービス

(2) 人材派遣事業

人材派遣サービス

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間（自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

当第3四半期連結会計期間（自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

前第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

前第3四半期連結会計期間（自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

当第3四半期連結会計期間（自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

前第3四半期連結累計期間（自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)
1株当たり純資産額 1,288.04円	1株当たり純資産額 1,229.56円

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	6,327,556	6,040,741
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	26,423	25,520
(うち少数株主持分)(千円)	(26,423)	(25,520)
普通株式に係る四半期末(期末)の純資産額(千円)	6,301,133	6,015,221
1株当たり純資産の算定に用いられた四半期末(期末)の普通株式の数(株)	4,892,028	4,892,176

2 1株当たり四半期純利益金額等

前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
1株当たり四半期純利益 115.52円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	1株当たり四半期純利益 100.45円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)
四半期純利益(千円)	578,428	491,423
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益(千円)	578,428	491,423
普通株式の期中平均株式数(株)	5,007,357	4,892,095

前第 3 四半期連結会計期間 (自 平成20年10月 1 日 至 平成20年12月31日)	当第 3 四半期連結会計期間 (自 平成21年10月 1 日 至 平成21年12月31日)
1 株当たり四半期純損失 5.17円 なお、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、1 株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	1 株当たり四半期純損失 10.07円 なお、潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、1 株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 1 株当たり四半期純損失金額の算定上の基礎

	前第 3 四半期連結会計期間 (自 平成20年10月 1 日 至 平成20年12月31日)	当第 3 四半期連結会計期間 (自 平成21年10月 1 日 至 平成21年12月31日)
四半期純損失 (千円)	25,298	49,271
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失 (千円)	25,298	49,271
普通株式の期中平均株式数 (株)	4,894,616	4,892,057

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年 2 月10日

株式会社エイジス
取締役会 御中

三優監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 杉 田 純 印

業務執行社員 公認会計士 海 藤 丈 二 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社エイジスの平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成20年10月1日から平成20年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社エイジス及び連結子会社の平成20年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年 2 月10日

株式会社エイジス
取締役会 御中

三優監査法人

代表社員 公認会計士 杉 田 純 印
業務執行社員

代表社員 公認会計士 海 藤 丈 二 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社エイジスの平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成21年10月1日から平成21年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社エイジス及び連結子会社の平成21年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。